

きらめき☆奈良

子どもたちには夢があります。未来があります。可能性があります。
私たちの大切な宝である子どもたちが、自らの力で輝き、地域や社会、未来を照らす光となるように、奈良市ではさまざまな教育を行っています。
奈良市教育だより『きらめき☆奈良』では、奈良市の教育を紹介します。



発行：平成26年7月
奈良市教育委員会

第6号

2・3面 特集

教育長の「見る・聞く・語る」
フレッシュ先生と語る！
奈良の教育 大切なこと

4面

体験しよう！
「キッズ学び
のフロア！！」

校区の取組
ラジオで紹介
「奈良市地域学校
連携情報番組」

コラム：
給食と和食文化



奈良市教育センター
イメージキャラクター

奈良市では、22ある中学校区ごとに、地域と学校が連携して、子どもを守り育て、地域をより元気にすることを目的とした事業「地域で決める学校予算事業」に取り組み、教育活動の充実を図っています。その取組をラジオ局「ならどっとFM」で紹介しています。
4月24日には、富雄中学校で、ボランティア部の生徒たちと地域と学校の間を繋ぐ取り組みを深める地域コーディネーターの方々が番組の取

校区の取組ラジオで紹介

「奈良市地域学校連携情報番組」放送中

ならどっとFM (78.4MHz) 毎週木曜日 10:30~11:00

材を受けました。
取材では、ボランティア部の部長が、「富より団子」と「クリーンキャンペーン」について紹介。部員たちは「地域をきれいにできることがうれしく楽しい」と話し、地域コーディネーターからは「先生方からの信頼が心の支え。信頼に応えられるようにしたい」といった声が上がりました。
今後、各中学校区の取組が紹介されます。ぜひ、聞いてみてください。



『富より団子』を販売する部員の皆さん



『富より団子』富雄中学校の生徒が開発
月ヶ瀬の古代米を使用した学区ブランド産品

再放送
金曜日 16:20
土曜日 30:30
55

昨年、ユネスコの無形文化遺産に『和食』が登録されました。登録された『和食』とは特定の料理ではありません。「自然を尊重する日本の伝統的な食文化」を指します。地域に根ざした新鮮で多様な食材を使用し、食材の持ち味を引き出す文化や技術が評価されています。

給食と和食文化

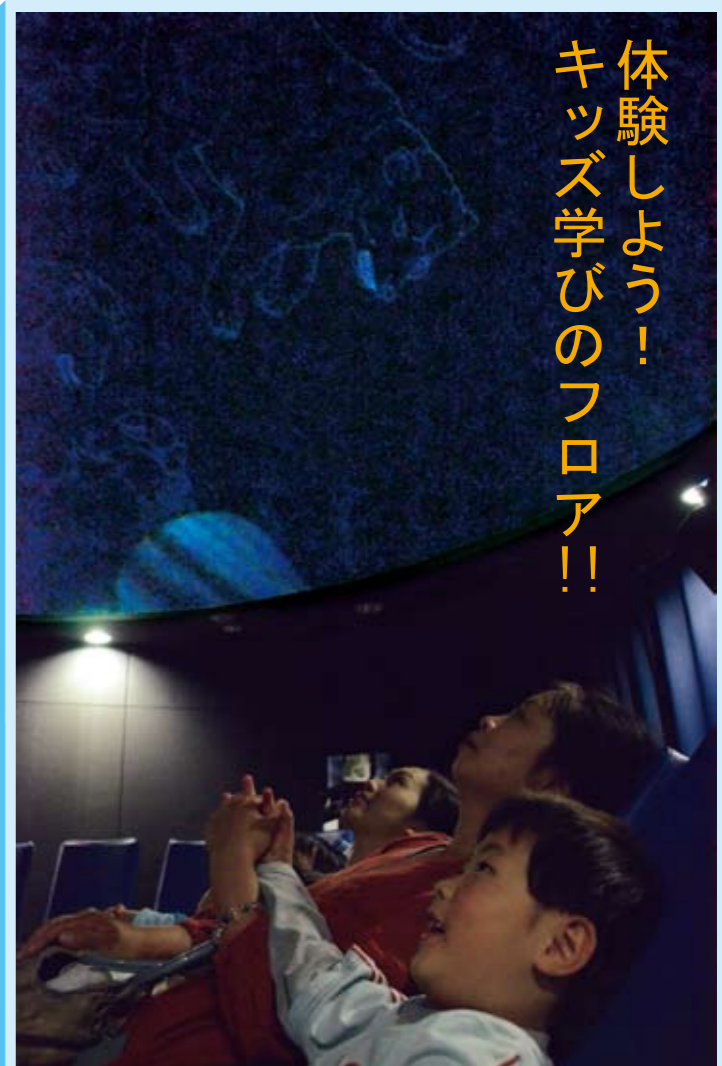
奈良市の学校給食でも、奈良市をはじめとした奈良県産の食材を使用しています。6月の食育月間では、大和茶を使用した『ちくわのお茶あげ』、県産のナスやネギと三輪そうめんを使用した『なす入りにゅうめん』を出しました。『和食』の文化を伝える給食の味、ご家庭でもぜひご賞味ください。

『なす入りにゅうめん』



材料（4人分）
そうめん 3束、だし汁 5カップ、みそ 適量、なす 中1個、たまねぎ 中1/2個、にんじん 1/2本
作り方
①そうめんを茹でる。②野菜を切り、なすは水につけておく。③だし汁で野菜を煮る。④煮えたら、そうめんと味噌を加え、味を調える。

粉茶を使う『ちくわのお茶揚げ』も一緒にどうぞ！



体験しよう！
キッズ学びのフロア！！

奈良市教育センターでは、科学や宇宙への興味・関心を高め、探究心を育む観察や実験教室を市内の子どもたちを対象に行っています。また、ものをつくる喜びや科学の楽しさが体験できる多数のプログラムを実施しています。

これらのプログラムの中には、大学や企業などの研究機関、伝統工芸士などの専門家と連携した専門性の高い内容も含まれています。「絹の糸と化学の糸」の実験では、まゆから生糸を取り出したり、化学薬品を使ってナイロンをつくったりしました。参加した子どもたちからは、「一つ一つのまゆからできる糸の量が変わったので、糸や布を作る大変さがわかりました。」などの感想が寄せられました。「星空教室」も人気のあるプログラムの一つです。ドームに満天の星空や天の川を鮮明に映し出すだけでなく、星雲や惑星等の写真も投影し、分かりやすく解説しています。「すぐくきれい！」という声に包まれるドームシアターで、プラネタリウムを親子一緒に体験してみませんか？

きらめき☆奈良については、[奈良市教育だより](#) [検索](#)

記事に対するご意見やご感想等がございましたら、[下記までお知らせください。](#)



おはよう おかえり こんにちは
声かけ 気かけ 笑顔かけ
守ろう、地域の子どもたち
毎月17日は「子ども安全の日」です。

奈良市教育委員会事務局 教育政策課
〒630-8580 奈良市二条大路南一丁目1番1号
Tel.0742-34-5386 Fax.0742-34-4597



環境にやさしい植物油インキと古紙配合率100%再生紙を使用しています。

フレッシュ先生と語る！ 奈良の教育 大切なこと

今年度新たに採用され、奈良市立の小中学校に着任した3人のフレッシュな先生が、奈良市が今後進めていく教育について、教育長と対談しました。



池見幸恵先生
飛鳥小学校
2年生担任



吉田勇樹先生
辰市小学校
4年生担任



中島令太先生
富雄南中学校
2年生副担任
保健体育科

英語・ICTの拡充

今、求められるツール

吉田：私が小学生の時には外国語活動がなかったのですが、今は、教えなければなりません。自分が教わったことのない授業なので、イメージしにくいです。
池見：私も中学から英語を学んできましたが、外国の人に道を聞かれると、ドキッとします。

教育長：私もそうですよ。まず、小学生に、外国の方とも物怖じせずにコミュニケーションをとれるようになってほしいと思います。今年は、ALTを19人に増やし、もともと小学校へも派遣して日常的に英語にふれる機会を増やそうと思っています。例えば、全てのALTを一つの小学校に集める日を設けてもいいですね。

いすね。

吉田：そうですね。ALTと一緒に給食を食べると、子どもたちも大変喜びます。

教育長：それから、もう一つ。これからの教育には、ICTが必要となってきます。今後、タブレットを使う社会が当たり前になるでしょう。

池見：ICTを活用し、多くの情報から自分で重要な情報を選べることは大切ですね。

吉田：便利なものを知ると、それらに頼りすぎませんか。

教育長：ICTは学びの幅を広げることができます。しかし、実際に文字を書いたりして、こつこつと積み上げていく学習も大切です。また、ICTを使って何をしたいのか、英語で何を世の中に発信したいのかということも考えてほしいと思います。

奈良市が進める教育	キャリア教育の推進
世界遺産学習の充実	英語教育の充実
小中一貫教育の推進	ICTを活かした教育の推進
ALT…外国語指導助手 ICT…情報通信技術	

地域・社会と関わる

今、求められるチカラ

中島：「自分のなりたいたい職業について調べる」という授業を行ったのですが、子どもたち自身に新たな発見もあり、さらに職場体験では自分の行きたい職場に行き、子どもたちにとつていい刺激になっていると思います。

教育長：興味のある仕事を調べるだけでなく、実際に一歩踏み込んで体験する。自分の将来像を具体的に思い描く機会を持つことが大切です。奈良市では、他にも学校から出て地域社会と接する機会を大切にしています。なぜだと思いませんか。

池見：様々な人との関わりや、周りを見ることが、大切だからだと思っています。

ためには、外と触れる機会がとても重要です。先生方にも積極的に学校外の方と交流をもつてほしいですね。

変化する社会

未来を見据えて

吉田：奈良市では小中一貫教育を進めています。小中一貫教育に向けてどのようなことを心に留めて取り組んでいけばいいでしょうか。

教育長：そうですね。小学校を卒業した子どもは、半月も経たないうちに中学校へ入学しますが、その間に子ども自身が大きく変わるわけではありません。それなのに、学校の様子は大きく変わりますから、その変化にとまどつてしまふ子どももいます。つまり、小学校から中学校へ滑らかに接続し、一人ひとりの子どもたちを9年間育てようという、共通理解を小中学校の先生がもち、中学校を卒業する子どもたちの姿を見据えた教育を行うことが大切です。皆さんの学校

教育長：そうですね。今は学校だけで教育が完結する時代ではありません。子どもたちが生きるこれからの社会はさらに多様化し、高いコミュニケーション能力が必要となります。そのために語学や情報機器の活用はもちろん、思考力、創造力、提案力など、身につけた力を「どう生かせるか」がカギとなります。

また、このような力を磨く

では、小中学校の交流はあります。池見：先日、中学校の授業を見に行きました。その授業での子どもの姿を見て、どんな中学生に育てなければいけないのかということを感じました。

中島：私の中学校でも、数日前に、校区内の先生と意見交換会を行いました。

教育長：その交流が日常的にできるようにしなければいけません。小中一貫教育は、教育の目的ではなく手段です。まず、先生が変わることが重要です。先生が変われば学校が変わり、学校が変われば、子どもが変わります。その姿が奈良市の目指している子ども像になってほしいと思います。

最後に、皆さんには、ぜひ、世界遺産など奈良の素晴らしきところを深く知ってほしいと思います。そして、奈良で教えることを誇りに思う先生になってください。皆さんの活躍に期待しています。



平成 26 年 4 月 1 日に、奈良市立小中学校新規採用教員着任式が行われ、小学校 43 名、中学校 24 名が着任しました。着任式で、私は、「教育は人がするもの」「教育は学校の中だけで完結するものではない」と話しました。新任の先生方には、広い視野をもち、地域社会とも関わりながら、しっかりと自分自身を磨いてほしいと思います。

